

弘前市総合計画審議会議事概要（第５回）		
日 時	平成２６年３月３日（月） １３時３０分～１５時３０分	
場 所	弘前地区消防事務組合 消防本部 ３階 大会議室	
出席者 （２２人）	委 員 （１６人）	檜楨会長、村松委員、生島委員、阿部委員、中村委員、齋藤委員、淀野委員、三上（弘）委員、清野委員、成田委員、工藤委員、鈴木委員、佐藤委員、福士委員、山本委員、名越委員
	事務局 （６人）	経営戦略部長、行政経営課長、行政経営課長補佐、行政経営課総括主査、行政経営課主査、株式会社富士通総研
会 議 概 要 １ 開会 ２ 議事 （１）前回議事概要について ①資料１に基づき事務局から説明した。 →了承された。 ②前回の会議で、意見を募集していたが何かあったか？ ⇒ １）カタカナ表記に気を付けて欲しいということと、２）経営計画と分野別計画の整理の仕方についてと、３）ご自身の経験等から、経営計画全体について、細かい意見があった。これについては経営計画全体のとりまとめの際に、ご説明したい。 （２）（仮称）弘前市経営計画（案）について ①資料２－１、２－２、②資料３、４、５に基づき、事務局から説明した。 ○主な質疑等の内容は以下のとおり。 □ 説明資料の確認など、あるか？ □ 前回からずっと気になっていたが、ビッグデータとオープンデータについて、具体的にどういったものが公表されるということを想定しているのか。市のホームページを見れば、人口動態とか、介護計画とか、農産物とかあるのですが、他にどういったものが想定されるのか。期待しているところである。 ⇒ 現在、一番あるのが交通情報である。関東で大雪が降り、渋滞が発生したということがあったが、こういった交通量の情報を公開することで、ナビの会社等、民間会社が活用し、交通情報の提供をすることが可能となる。実際、東日本大震災が発生した際にも、活用事例がある。どこの道路が、地震によって不通だとか、例示としてある。		

- 弘前市の総合計画を進める中での例示はないか。
- ⇒ 市内の事業所さんに関わる情報等を収集活用して、公表していければなと思っている。他にも、GISの整備も行う予定ですが、観光情報を公表することで、民間の観光関連企業がソフト開発やビジネスチャンスにつなげていければなと思っている。
- 今までは、出来あがった情報だけを開示しているが、これまでと違って、市民、民間と行政が一緒になって活用、検討していけるものとなっていくものと考えられる。これについては、オープンデータ研究会等も事業として記載されているが、これから活用方法等を考えていくというものでもある。
- 自治基本条例について、この3つの重点システムやオール弘前体制、強い行政との関連はあるか？
- ⇒ 自治基本条例については、事務事業としても掲載されていますが、今回示したオール弘前体制というものについては、自治基本条例と同様に、各主体の役割等を記載している。そして、その行動についても記載している。自治基本条例の理念に基づき、その活動のインフラ整備と言えるものとなっている。
- 自治基本条例の委員になっている人が3人いるが、総合計画の基本構想の制定については、自治法の改正により、作りたい自治体がつくるということになったのだが、そういう中で、現在、自治基本条例の制定を目指しているわけであるが、弘前の自治基本条例では、総合計画を策定しなさいというものになる予定となっている。まだ、条例自体は策定されていないが、策定された後は、その条例に沿って、策定されるものであると思っている。条例に上位、下位の問題は出てこない。策定された後は、自治基本条例に基づき、総合計画を策定するということになるものである。
- 別によろしいか。この戦略体系の中にコンソーシアムについて掲載されているが、高等教育機関コンソーシアムの機能そのものと、経営計画の中にある事業とでどう整合性があるのかが、わからない。コンソーシアムの組織を支援するのか、コンソーシアムの活動を支援するのか？
- ⇒ 今現在、コンソと我々とで、定例的に会議をしている。市のバックアップなど、連携を図っている。その中で、学生さんの力だとか、大学の知というものを有効にしていきたい。
- もともとのコンソーシアムの機能そのものが分からないんですよ。果たして、6大学での協定の中身自体がよく分からない。
- 私からよろしいでしょうか。始めのころは、6大学の連携がほとんどなかった。よって、行政の特に企画部門との連携をしながら、横の連携をしていこうということから協定締結になり、ここ数年はその動きが活発になってきたものと感じている。大学自体は個別に6つある。それらについて連携をして、弘大を核に繋がっていこうというものである。
- コンソーシアムというのは横のつながりを強化するシステムであり、地域貢献というだけでなく、横の連携を強化するものである。
- コンソの企画運営委員を担当している。コンソの組織の理事は各大学の学長がな

っており、また、事務レベルでは各大学の事務の者もいる。弘前市もそのメンバーである。

コンソの意義は3つ。学園都市というのは研究者、研究資源、研究組織という研究機関があることであり、それらの研究力を高めること。それから、学生力を生かすというより、学生力を高めること。そして、3つ目は大学が連携することで、地域貢献を果たしていこうということである。

そこで、弘前市が協力してくれているということで、コンソが弘前の下部組織ではないわけで、資料2の方は支援していただくということはあるが、資料3の市民行動プログラムにコンソが記載されるのは少し違和感がある。学生力を生かすわけではない。どのように関わりになるのか。今後関係者と協議していくということであるが、今現在、コンソの中でこのような議論はなされていない状況である。この図に関してはコンソの元々のミッションがゆがめられてしまいそうな危惧をもっている。

- 自治基本条例でも、学生の役割が出てくるが、コンソという文言は使っていない。一つの団体をもって支援するのであれば、商工会議所としても学生と関わっていくときに、コンソというものが分からないで総合計画に関わっていくと変な方向に行かないかを危惧している。
- 資料3のオール弘前市民行動プログラムのアとイの関係ですが、イについて、行政の計画とは経営計画以外の個別計画のことなのか確認してから次の質問したい。
⇒ 分野別政策という、ひとづくり、くらしづくりなど、こういった計画のことを示している。
- そうすれば、都市マスや健康21の計画などは、ここでいう行政の計画に当てはまるのか。
⇒ それは、それらの個別計画も含まれると思っている。個別計画に記載された事務事業についても、この経営計画に位置付けるものである。
- 今、経営計画のマネジメントについて説明されたが、個別計画のマネジメントについてはどうなるのか。
⇒ 基本的に事務事業は、この経営計画にも掲載されるので当然に方向性は同じであり、それぞれの個別計画に掲載されているが、この経営計画でマネジメントしていく。で整理している。
- そうなると、経営計画に個別の計画の事務事業が掲載されるのであれば、個別計画は不要になるのではないか。
⇒ 経営計画の見直しをした場合、個別計画もそれぞれ合わせて見直していきたいと館掛けている。
- 定性評価、定量評価は経済用語かと思うが、その違いについて説明して欲しい。また、経営計画について、市議会で経営計画について質問があったかと思うが、審議会で話し合われたことをまた市議会で説明するというのは、どう整理されていくのか。
⇒ 定量評価は数値等で評価するもので、定性評価は、数値では表せないものを

文章等で評価するもの。

市長から、諮問して、そして、市長へ答申していただく。それを議会に提案して議会の承認をしてもらうという仕組みで実施しているので、議会で否決されたり、一部修正がないわけではない。スケジュールとしては、5月臨時議会を出したいと思っている。

- 予算のはなしだけだと思っていたが、経営計画すべてについて議会の審議を得るということか？

⇒ その通りです。

- なかなか理解できないところがあるというか、わからないので聞きたい。構成図の市民行動プログラムについて、学都と1%でやっていくということでいいのか。

⇒ 具体的に今までどおり実施していくが、位置づけとして、市民行動プログラムとして実施していく。評価、改善もしっかりしていくということである。

- たとえば、1%システムの26年度の実施について、行動の準備をされていると思うが、スケジュールとして、いつから出来るのか。まだ、理解されていないということも感じているが、混乱なく実施していくための配慮については何かあるか？

⇒ 今回、骨格予算と肉付け予算との予算になっていくが、骨格に係る1次募集については、これまでどおり実施する。肉付けについても、これまで3年実施してきた内容を踏襲して、あまり、これまでのやり方を変えないように、位置づけをワンランク高くして実施したいということである。学都の方は、先ほどのお話のように、学生さんの取り組みとして難しいところもあるが、我々の学生さんへの期待もありますので、時間かかるかもしれませんが協議をして実施していきたいと思っている。

- 第4章の2ページ目ですが、審議会と市民会議というものを作ってチェックしていくということであるが、実際として、スタッフをどうするつもりか。評価会議をやっているが、委員と行政側とのギャップがある。実効あるチェックが難しいという感じをも受けている。また、市民アンケートについて、市民の意見について、市側がどう受け止めたのか、意見に対する反応がないと、市民がやる気を失ってしまう。地域経営であるのであるから、審議会と評価会議の具体的なイメージを聞きたい。

⇒ 行政の会議については、役所の中の会議です。審議会については、この審議会を踏襲したい。先ほど説明したとおり、状況等に応じてこの計画は時宜をとらえて柔軟に見直しをしていきたい。評価にあたっては非常に難しいものがありますので、例えば部会を設置して専門分野に分かれて審議し、最終的に全体で整理するなどの進め方を整理して実施していきたい。

- 土地利用について、非常に抽象的であるが。ひとつ、2.5キロと言うのはどういう発想で2.5キロなのか、お聞きしたい。コンパスの中心が弘前駅なのかなど、お聞きしたい。

⇒ 出典は都市マスで出しているもので、弘前のコンパクトさというものを示しているものである。いわゆる、半径2.5キロ内にいろんな施設が集約されている

ということを示しているものである。

- それから、弘前らしさと言う言葉や、産業について、土地利用で触れなくていいのかとか、安全安心の中に防犯等もないということなど、見出しと本文のずれなんかないかなと思っていますが。
- 土地利用について書き方難しい。抽象的になるのもやむを得ないと思う。例えば、市街化調整区域のあり方、都市計画的な規制とかいろいろ出てくる。例えば防災の計画などは様々具体的な事業とか書けると思いますが、この計画では土地利用に具体的なことを書いていくのは難しいのではと思っている。
- 逆にお聞きしたい。何が何でも経営計画に土地利用を入れる必要はあるのか？都市計画マスタープランに委ねてもいいのではないか。ここでいう、コンパクトシティというのは、中心市街地のことをいうのであるし、区画整理した地域があるし、そういったものがここでは見えてこない。都市計画マスタープランには詳しく載ってくるであろうし。
⇒ おっしゃる通り、都市マスの方がこれまでの経緯等々、詳しく掲載されており、この経営計画では、この範囲の記載ぶりにとどめたものである。
- 具体的に、これ以上の詳細は、都市マスによるということを記載した方が良い。
- 経営計画と個別計画の性格の違いというものもあるようであるので、ご検討いただきたい。

※ 次回の予定について説明。

3 閉会